

**肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と
拡充に関する研究班（江口班）との連携**

研究分担者：是永 匡紹 国立研究法人国立国際医療研究センター 肝炎情報センター
研究協力者：大谷 理沙 伊瀬 雅比古 千葉県疾病対策課
研究協力者：八橋 弘 長崎医療センター
研究協力者：長沖 祐子 マツダ病院 消化器内科

研究要旨：約 53～120 万人が陽性と知りながら受診していないと推測されており、肝臓専門医のみならず非専門医、自治体の肝炎ウイルス対策部署・保健所、健診医療機関や保険者等にも肝炎ウイルス検査受検促進、陽性者を受診、受療へ導くことの重要性を認知させることが急務であるが、その対策として多職種による肝炎医療コーディネーター(Co)養成が全国的に進められており、肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と 拡充に関する研究（江口班 or Co 班）も開始となった。

昨年度も、拠点病院内 Co 数が多いことは明らかになったものの、その知識が一定の水準を保っているかは不明であり、感染に対するアンケート調査をアンサーパットで行った。その一方で自治体肝炎ウイルス陽性者のフォローアップに携わる自治体肝炎対策部署の肝 Co にヒアリングを行うと、Co として活動しているというより、業務（仕事の一環）として陽性者に接していることが明らかとなり、また異動によって活動が難しくなっており、肝炎対策部署の肝 Co 養成は、異動後速やかに行うことが重要である。

また、多くの施設で肝炎ウイルス受検促進に対する啓発活動が行われているが、啓発資料を手にした多くの人達が、その内容を確認していないため、啓発活動後のアウトプット調査を行い、効率的な活動に繋げる必要があると考えられた。

A. 研究目的

ウイルス肝炎はわが国の国民病と位置づけられ、約 350 万人のキャリアが存在すると推定されている。平成 23 年度統計では約 77 万人が未受検とされているが、平成 23 年から 5 歳毎の受検勧奨によって、健康増進事業でも約 400 万人以上受検済しており、その統計からは肝炎ウイルス検査を受けている絶対数は低下していると推測される。その一方で、陽性と知りながら受診していない、或いは受診を継続していない陽性者が約 53～120 万人に対する対策が急務である。その対策として、肝臓専門医のみならず非専門医、自治体の肝炎ウイルス対策部署・保健所、健診医療機関や保険者等にも肝炎ウイルス検査受検促進、陽性者を受診、受

療へ導くことの重要性を認知させることが重要であり、その方法の一つとして、肝炎医療コーディネーター(Co)養成が全国的に開始され、平成 29 年度内に全都道府県で養成開始となった。本研究は、拠点病院内 Co のウイルス肝炎感染に対する知識、自治体肝炎対策部署や職域 Co の現状を調査し現状を把握するとともに、啓発活動の問題点を抽出することを目的とする。

B. 研究方法

（１）肝疾患診療連携拠点病院相談・支援センター向け研修会で、厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）八橋班が作成したウイルス肝炎感染に関するアンケートは 11 題 23 問を 15 分間で解答し、アンサーパットにて解析を行った。

(2) 平成 30 年 7 月、年間陽性者 10 人以上ある市町のうち、フォローアップ事業同意率が高い A, B, C 市肝炎対策部署の肝 Co に、C 県庁に集まって頂き、下記の事前アンケートを行い意見交換会を開催した。

肝炎医療コーディネーター活動状況に関するインタビュー

聞き取り内容

2018 年 7 月 4 日 (C 県)

聞き取り _____ お相手 _____ (所属: _____)

【質問事項】

- ・肝炎ウイルス検査の受検勧奨として工夫されていることや留意されていることがあれば教えてください。
- ・陽性者からの同意率アップのために工夫されていることがあれば教えてください。
- ・同意者の受診率アップのために工夫されていることがあれば教えてください。
- ・肝炎医療コーディネーターになってよかったと思うことがあれば教えてください。
- ・肝炎医療コーディネーター養成研修会について要望があれば教えてください。
- ・今後、コーディネーターを増やすにはどのような取組をすればよいか意見があれば教えてください。
- ・今後、どのような職種や立場の人にコーディネーターになってもらったらいいと思うか意見があれば教えてください。
- ・その他 (啓発資料)

(3) 平成 31 年 2 月 T で行われた職域向けウイルス性肝炎研修会 (健康保険組合に属する医療関係者に対する肝 Co 養成研修) 後に、研修会に参加する目的、今後の要望、事業所内肝炎ウイルス検査についてアンケートを行った。

(4) 平成 30 年 7 月 28 日広島県で開催された世界肝炎デーのイベントに参加し、該当でインタビューを行った。

C. 研究結果

(1) 参加者は 54 施設、110 名 (医師 25 名、看護師 52 名、MSW16 名、事務・相談員 13 名、その他 5 名) 肝炎に関する回答を以下

問 1 d 咳をすると他人に移すか？

B型肝炎

00:00



キーバッド数:150 投票数:95

に
し
め
す。

問 2 a 食事を通じて感染する可能性？

B型肝炎

00:00



キーバッド数:150 投票数:101

問 2 b 食事を通じて感染する可能性？

E型肝炎

00:00



キーバッド数:150 投票数:101

問 3 C型肝炎の患者さんと食事して感染する確率は？

00:00



キーバッド数:150 投票数:101

問 4 C型肝炎の患者さんの採血をした針を自分に刺した際の感染する確率は？

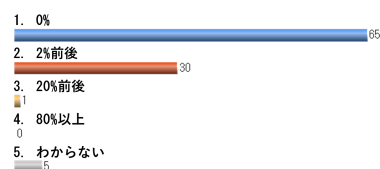
00:00



キーバッド数:150 投票数:103

問 5 C型肝炎の患者さんを刺した蚊が別の person へ感染させる確率は？

00:00



キーバッド数:150 投票数:101

問7 介護施設のB型肝炎ウイルス感染者の対応について

00:00

1. 部屋を別部屋にする
0
2. 入浴介助によって感染する可能性がある
1
3. 食事介助によって感染する可能性がある
0
4. 施設の職員はB型肝炎ワクチン接種が望ましい
97
5. わからない
2

キーボード数:136

投票数:136

問8 正しいものを一つ選んでください

00:00

1. 医師・看護師は全員B型肝炎ワクチン接種を受けることが重要
92
2. HBs抗体陽性の場合、血中に感染性のあるウイルスがいる
3
3. B型肝炎ワクチン接種によって陽性になるのはHBs抗体
1
4. B型肝炎ワクチン接種しても高齢者より青年の方が免疫を獲得しにくい
5
5. わからない
3

キーボード数:150

投票数:104

(2) A、B市は保健師、C市は事務職が参加した。3市の平成29年度陽性者フォローアップ事業の同意率、受診確認率は以下の通りである。

HBV	陽性者	同意数	同意確認率	受診確認	受診確認率
A市	2	2	100%	2	100%
B市	12	11	92%	8	73%
C市	73	18	25%	7	10%
HCV	陽性者	同意数	同意確認率	受診確認	受診確認率
A市	3	2	67%	1	33%
B市	9	9	92%	2	22%
C市	42	18	25%	4	24%

A市Coはすでに部署変更となっており（現在ワクチン担当）Coとして活動することがないとのこと、また3市とも肝Coとして活動しているというよりも、業務の一環の範囲内という認識であった。

困難点としては、陽性者は高齢者であり事業同意に時間がかかること、健康増進の目的があり、保健指導の同意というより初回精密検査の同意となってしまうこと（A市）、検査委託医療機関（医師会）との連携により同意率向上もしているが、専門医療機関からの受診確認連絡はインセンティブがなく、調査もしにくいこと（B市）また3市とも部署変更があれば、肝Coとして活動す

ることは難しく、フォローアップ事業を継続的に継続していくことに不安を示していた。

更に、リーフレット等の啓発資料を作成することは楽しみであるも、有効性・イメージ通りの資料を作成するのは難しく、デザイン等の依頼・資料の共有ができればとのことであった。

(3) 1000人以上の事業所の産業衛生スタッフ73名が参加しその殆どが保健師・看護師であった。参加した理由はウイルス肝炎に対する知識が知りたくて受講した人が90%以上であり、相談業務の向上、両立支援について知りたい人も50%以上であった。今後については、定期的な情報提供や、Co取得後の研修について希望される方が50%以上を占めた。

また60%以上が肝炎ウイルス検査を実施しており、経年的に実施と特定年齢によって実施の半々にわかれていた。更に、陽性者に対して、受診確認をしている事業所も40%以上存在した。

(4) 広島県では駅前、野球場（マツダスタジアム）の入口で、ウイルス肝炎に対するリーフレットと肝炎対策部署の連絡先を記載したポケットティッシュを配布し、特に後者では約2000人分が30分で配布が終わっていた。更にスタジアムの巨大スクリーンで「知って肝炎」の動画を放映した。（次図）





10 名程度、肝炎ウイルス検査に対する知識をインタビューしたところ、全員肝炎ウイルス検査を受けたことがないと答えるも、検査したいという方は 1 名のみであり、啓発直後にその効果を判定することは出来なかった。



D. 考察

B 型、C 型肝炎ウイルス感染に関する内容よりも A 型、E 型肝炎ウイルス = 経口感染に対する知識が低下していた。C 型肝炎ウイルスに対する針刺し事故の確率 2% 程度であるが、回答にばらつきが認められ 20% 以上感染すると回答された人が約 30% 存在した。また、蚊に刺されても感染する可能性があると答えた割合が 30% を占めた。これらの事は、拠点病院の医療従事者でさえ、認識度が異なる現状では、一般市民も肝炎ウイルスに対して誤解を生むことになる。HCV の撲滅 (elimination) を目指し、差別・偏見を減少させるためには「相談業務である拠点病院で正しい知識を共有すること」を、早急に行わなければならないことを示唆している。

C 県では 54 市町村肝炎対策部署に肝 Co に配置が終了している、また異動した際は、交代された方が肝 Co 養成講習を受ける事を奨めている。

今回、自治体肝 Co とのヒアリングで、その活動は Co というより、仕事の範囲内であり、部署転換によりその活動が難しくなることが明らかになった。今後は異動後に出来る活動を纏め配布するなどを行う必要がある。また、どんなに Co が活動的でも、医師会等と交渉することは難しく、医師会担当理事や肝炎対策部署の上司との連携向上が、今後の Co 活用 (自治体肝炎ウイルス陽性者対策として) に不可欠である。平成 31 年 2 月には自治体 Co が集まりグループワークを行い更なる課題の抽出を行っている。

肝炎ウイルス検査が法定外のため肝炎ウイルス検査受検率が低いとされる職域 (健康組合では HBV7%, HCV3%) であるが今回の調査では、半数が実施、更に受診確認まで保険者の保健師、医務室等で行っていることが明らかになった。そのため、個人情報に配慮した検査結果通知を含めた正しい肝炎ウイルスの知識の普及活動が健康保険組合で必要と思われ、専門医療機関との連携が急がれる。

肝炎ウイルス検査は多くの国民が受検済みであると推定される。一方で陰性者は肝炎ウイルス検査を受検したことを覚えていない可能性も高い。今後は肝炎ウイルス検査の受検率の低い地域・事業所を調査後に、検査促進の啓発活動を行うことが必要であり、target が絞れない場合は、受検啓発だけでなく、検査結果の確認、検査を受けている機会が多いこと、非侵襲な検査紹介 (超音波・肝硬度) などをアピールすることも新たな啓発方法として重要と考えられた。

E. 結論

(1) 自治体肝炎対策部署の肝 Co 活動を動かしやすくするには、異動後の配慮、医師会理事等に直接交渉できる上司・専門医療機関の協力が必要である。

(2) 大企業では肝炎ウイルス検査の実施率が高く、肝炎ウイルスに対する知識の必要性を感じる人も多く、職域向けに特化した研修会も必要である。

(3) 肝炎ウイルス検査受検促進を網羅的に行うだけでは、その効果判定ができず、受検率が低いところでの啓発、また肝炎ウイルス検査受検促進以外のメッセージを届ける必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発活動

(1) 是永匡紹. 千葉県肝 Co の活動内容に関する意見交換会(進行 平成 30 年 7 月 4 日、肝炎対策推進室・千葉県自治体/職域 Co・千葉県感染症医療班 10 名)主催 千葉県

(2) 是永匡紹. 埼玉県の肝炎重症化予防推進事業における陽性者フォローアップに関する研修会(講演 平成 30 年 7 月 24 日 市町肝炎対策部署、保健センター職員向け 50 名)主催 埼玉県

(3) 広島県の世界肝炎デーのイベントにて参加者の interview(平成 30 年 7 月 28 日、マツダスタジアム 一般市民 3000 名)主催 広島県 広島大学

(4) 是永匡紹. 「知って、肝炎」肝炎対策セミナー(講師 平成 30 年 11 月 15 日 事業所関係者向け 96 名)

主催 協会けんぽ埼玉支部 埼玉県

(5) 是永匡紹. 平成 30 年度千葉県肝炎医療コーディネーター養成研修会

(講師 平成 30 年 12 月 1 日 千葉商工会議所 93 名) 主催 千葉県

(6) 是永匡紹. 平成 30 年度 職域向けウイルス性肝炎研修会コーディネーター養成コース 1(講師 平成 31 年 1 月 31 日 東京都社会福祉保健医療研修センター 事業主や総務、

人事担当 41 名)主催 東京都福祉保健局

(7) 是永匡紹. 平成 30 年度 職域向けウイルス性肝炎研修会コーディネーター養成コース 2(講師 平成 31 年 2 月 7 日 東京都社会福祉保健医療研修センター 産業医や保健師 73 名)主催 東京都福祉保健局

(8) 是永匡紹. 平成 30 年度市町村職員肝炎対策研修会(講師 平成 31 年 2 月 27 日 35 市町村)主催 千葉県

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし